

二〇二二(平成二四)年度 研究所報告

一 組織

所 長 浅見直一郎
主 事 采翠 晃
委 員 水島 見一(学監・副学長)
長谷岡英信(学監・事務局長)
ロバート F・ローズ(文学部長)
高井 康弘(大学院文学研究科長)
山野 俊郎(短期大学部長)
古川 哲史(学生部長)
村山 保史(入学センター長)
浅見直一郎(真宗総合学術センター長)
乾 源俊(教授・中国文学)
山本 和彦(教授・仏教学)
李 青(教授・中国現代文学・中国語)
木越 康(准教授・真宗学)

二 研究組織

〔特別指定研究〕

「**建学の精神**」教育推進研究

研究課題 大谷大学建学の精神の具現化
研究員 草野 顕之(研究代表者・学長・教授・日本仏

教史学)

木越 康(チーフ・准教授・真宗学)
望月 謙二(教授・国語科教育)
渡辺 啓真(教授・倫理学)
福島 栄寿(准教授・日本史学)
富岡 量秀(講師・真宗学・幼児教育学)
西本 祐攝(講師・真宗学)
研究補助員(RA) 拝原 祥子(博士後期課程在学)

〔指定研究〕

国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の

整理・収集・公開

研究員 井上 尚実(研究代表者・准教授・真宗学)

藤枝 真(准教授・哲学・宗教学)

松浦 典弘(准教授・東洋史学)

新田 智通(講師・仏教学)

嘱託研究員 Michael Pye (マールブルク大学名誉教授)

Mark L. Blum (ニューヨーク州立大学教授)

Paul Watt (早稲田大学留学センター教授)

羽田 信生(毎田周一センター所長)

Michael J. Conway (本学非常勤講師)

研究補助員(RA) 亀崎 真量(博士後期課程在学)

(RA) 河邊 啓法(博士後期課程在学)

西藏文献研究

研究課題 チベット語文献及びパリー語貝葉写本のデータベース化

研究員 福田 洋一（研究代表者・教授・仏教学）

兵藤 一夫（教授・仏教学）

松川 節（教授・東洋史学・人文情報学）

三宅伸一郎（准教授・チベット学）

嘱託研究員 白館 戒雲（本学名誉教授）

清水 洋平（本学、名古屋大学非常勤講師・特別研究員）

宮本 浩尊（元任期制助教・仏教学）

太田 路子（本学非常勤講師）

高本 康子（北海道大学スラブ研究センター学術研究員）

西沢 史仁（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

研究補助員（RA） 永藁 知也（博士後期課程在学）

（RA） 稲葉 維摩（博士後期課程在学）

〔資料室〕

大谷大学史資料室

整理課題 大学史関係資料の収集・整理

資料室長 采翠 晃（研究所主事・准教授・仏教学）

嘱託研究員 戸次 顕彰（本学非常勤講師）

研究補助員（RA） 吉田 仁美（博士後期課程在学）

東本願寺海外布教資料室

整理課題 大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外布教関係部分の整理

資料室長 桂華 淳祥（教授・東洋史学）

研究補助員（RA） 濱野 亮介（博士後期課程在学）

デジタル・アーカイブ資料室

整理課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

資料室長 采翠 晃（研究所主事・准教授・仏教学）

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 元朝期～明朝初期の言語接触に関する文献学的研究

研究員 渡部 洋（研究代表者・准教授・中国語・近世の中国語文法）

松川 節（教授・東洋史学・人文情報学）

小野 浩（京都橘大学教授）

古松 崇志（岡山大学准教授）

石野 一晴（日本学術振興会特別研究員）

毛利 英介（京都大学非常勤講師）

研究協力員（支援） 伴 真一朗（博士後期課程修了）

研究課題 日本における西洋哲学の初期受容―清沢満之の

東京大学時代未公開ノートの調査・分析―

研究員 池上 哲司(研究代表者・教授・倫理学)

加来 雄之(教授・真宗学)

門脇 健(教授・宗教学)

朴 一功(教授・西洋古代哲学)

村山 保史(准教授・西洋哲学)

協同研究員 藤田 正勝(京都大学大学院教授)

竹花 洋佑(本学非常勤講師・特別研究員)

西尾 浩二(本学非常勤講師・特別研究員)

竹中正太郎(任期制助教)

研究課題 道宣著作の研究

研究員 大内 文雄(研究代表者・教授・東洋史学)

松浦 典弘(准教授・東洋史学)

協同研究員 藤井 政彦(前本学非常勤講師)

戸次 顕彰(本学非常勤講師)

今西 智久(任期制助教)

研究協力員(RA) 松岡 智美(博士後期課程在学)

研究課題 新出土仏教遺物と文献史料の統合による一三

一七世紀北アジア史の再構築

研究員 松川 節(研究代表者・教授・東洋史学・人

文情報学)

三宅伸一郎(准教授・チベット学)

研究協力員(支援) 清水奈都紀(奈良大学非常勤講師)

研究課題 曇鸞撰『讃阿弥陀仏偈并論』の原初形態の復元

とその思想的意義

研究員 加来 雄之(研究代表者・教授・真宗学)

ロバート F・ローズ(教授・仏教学)

協同研究員 金子 彰(東京女子大学教授)

研究協力員(RA) 青柳 英司(博士後期課程在学)

研究課題 ジュラ紀放散虫群集の数値年代

研究員 鈴木 寿志(研究代表者・准教授・地質学・古

生物学)

柴田みゆき(准教授・情報処理学)

協同研究員 周藤 正史(ボツダム大学地球科学研究科研究

員)

辻野 泰之(徳島県立博物館主任研究員)

小木曾 哲(京都大学准教授)

研究協力員(支援) Dr. Diersche, Volker

(ドイツ・バイエルン・シエグマイン在住研究員)

(支援) 三上 禎次(龍谷大学非常勤講師)

研究課題 保育者の資質向上へ向けたリカレント・モデ

ル・カリキュラムの開発

研究員	徳岡 博巳（研究代表者・教授・児童福祉学） 藤本 芳則（教授・日本児童文学） 山内 清郎（准教授・教育人間学・臨床教育学） 亀田十未代（講師・保育学） 中田 千穂（講師・体育学） 西村 美紀（講師・教育学・異文化間教育学）	研究課題	ラグ・ヴィラ博士の中国旅行記の和訳研究	研究員	三宅伸一郎（研究代表者・准教授・チベット学） ダシユ ショバ ラニ（講師・インド学・仏教学） 李 学竹（中国蔵学研究中心研究員） Dash Anurban（チベット学中央大学講師）	研究課題	戦後社会におけるジェンダー・セクシュアリティ秩序の形成と新たな親密性の構築	研究員	赤枝香奈子（任期制講師・社会学）	研究課題	世界史における東アジアとアフリカ―国際共同研究のための基盤形成―	研究員	古川 哲史（准教授・歴史学／比較文化・社会学）
研究員	徳岡 博巳（研究代表者・教授・児童福祉学） 藤本 芳則（教授・日本児童文学） 山内 清郎（准教授・教育人間学・臨床教育学） 亀田十未代（講師・保育学） 中田 千穂（講師・体育学） 西村 美紀（講師・教育学・異文化間教育学）	研究課題	ラグ・ヴィラ博士の中国旅行記の和訳研究	研究員	三宅伸一郎（研究代表者・准教授・チベット学） ダシユ ショバ ラニ（講師・インド学・仏教学） 李 学竹（中国蔵学研究中心研究員） Dash Anurban（チベット学中央大学講師）	研究課題	戦後社会におけるジェンダー・セクシュアリティ秩序の形成と新たな親密性の構築	研究員	赤枝香奈子（任期制講師・社会学）	研究課題	世界史における東アジアとアフリカ―国際共同研究のための基盤形成―	研究員	古川 哲史（准教授・歴史学／比較文化・社会学）
研究員	阿部 利洋（准教授・社会学）	研究課題	変動期の社会における法秩序の再構築―南アフリカとカンボジアの比較社会学的研究	研究員	許 秀美（任期制助教・特別研究員）	研究課題	本地物語の研究―菩薩行と誓願を視座として―	研究員	箕浦 尚美（本学非常勤講師・特別研究員）	研究課題	日本で発見されたオリヤー語『マハーパラタ』「津島貝葉」の校訂テキスト作成	研究員	黒澤 祐介（任期制助教・特別研究員）
研究員	飯田 剛史（教授・社会学）	研究課題	国会図書館所蔵「朝鮮筆記」の研究―かな書き朝鮮語に着目して	研究員	西尾 浩二（本学非常勤講師・特別研究員）	研究課題	本地物語の研究―菩薩行と誓願を視座として―	研究員	箕浦 尚美（本学非常勤講師・特別研究員）	研究課題	保育者の悩み・学習ニーズの変容と同僚性を基礎とした研修に関する実証的研究	研究員	黒澤 祐介（任期制助教・特別研究員）
研究員	民族文化祭の比較研究	研究課題	国会図書館所蔵「朝鮮筆記」の研究―かな書き朝鮮語に着目して	研究員	西尾 浩二（本学非常勤講師・特別研究員）	研究課題	本地物語の研究―菩薩行と誓願を視座として―	研究員	箕浦 尚美（本学非常勤講師・特別研究員）	研究課題	保育者の悩み・学習ニーズの変容と同僚性を基礎とした研修に関する実証的研究	研究員	黒澤 祐介（任期制助教・特別研究員）

研究課題	「民族学校」の日韓比較研究―日本の「朝鮮学校」と韓国の「華僑学校」を中心に
研究員	宋 基燦（任期制助教・特別研究員）
研究課題	触法知的障害者の更生と地域生活定着を促進するピアサポートプログラムの開発と評価
研究員	脇中 洋（教授・発達心理学・法心理学）
研究課題	ブラトン『メノン』の総合的研究
研究員	大草 輝政（任期制助教・特別研究員）
研究課題	タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究
研究員	清水 洋平（本学、名古屋大学非常勤講師・特別研究員）
研究課題	後期田辺哲学における象徴概念の研究
研究員	竹花 洋佑（本学非常勤講師・特別研究員）
研究課題	バガヴァティー・アラーダナーの新校訂本作成と全訳によるジャイナ教の断食死研究
研究員	河崎 豊（任期制助教・特別研究員）
研究課題	作家疑遅文学からみる「満洲国」時代の中国文

研究員	李 青（教授・中国現代文学・中国語）
研究課題	日本中世における治水・利水に関する史料的研究
研究員	川端 泰幸（任期制講師・日本中世史学）
研究課題	日本における子供向けシェイクスピア翻案物の研究
研究員	三浦誉史加（講師・英文学・英米文化）
三 指定研究の動向	
「建学の精神」教育推進研究	
【研究目的の現状】	
本研究は、「建学の精神」の具現化を課題とし、以下の三つの視点から研究を推進するものである。	
①「建学の精神」の現代的表現化	
②「人間学Ⅰ」の共通資料集の作成	
③「建学の精神」を活かした学科教育の在り方	
「建学の精神」とは、大谷大学初代学長清沢満之による「開校の辞」（明治三四年、移転開講式）と、第三代学長佐々木月樵による「大谷大学樹立の精神」（大正一四年入学者宣誓式訓辞）を指す。	
視点①では、本学が今日まで教育の根幹に据えてきた両学	

長の訓辞の意義を再確認し、これを現代的形で表現していくことを目指す。両訓辞は、それぞれ「私立学校令（明治三二年公布）」と「大学令（大正七年公布）」における宗教教育に対する制約のもとで公開されたものである。本年では、そのような当時の歴史的状况を加味したうえで両訓辞の持つ意義を再検証し、その精神が持つ現代的意義の確認と表現を含めた具現化の問題について検討した。

視点②では、大学の「建学の精神」に基づく教育を最も体現する科目である「人間学Ⅰ（文学部）」あるいは「仏教と人間Ⅰ（短期大学部）」に関して、教育の基礎となる共通資料の作成に向けた検討が期待された。学生と教職員が共に「建学の理念」を学ぶことができる基本テキスト作成を検討している。

視点③では、大谷大学の建学の精神と各学科における教育との連関について検討する予定であったが着手できず、今後の課題として残される。

【研究会の開催】

第一回研究会

◇二〇一二年四月一九日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
第一回…本年度の活動について

課題Ⅰ…近代化過程における「宗教学校」「宗教教育」の位置

課題Ⅱ…本学における「建学の精神」の位置

第二回研究会

◇二〇一二年五月一七日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
第二回…真宗大学東京移転開校の背景
講師…西本祐攝（大谷大学講師）

第三回研究会

◇二〇一二年六月二一日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
第三回…真宗大学東京移転開校の願い
講師…西本祐攝（大谷大学講師）

第四回研究会

◇二〇一二年七月一八日（水）午後六時三〇分～八時
第四回…清沢満之と「宗教」
講師…西本祐攝（大谷大学講師）

第五回研究会

◇二〇一二年一〇月三日（水）午後三時～五時
第五回…明治期の宗教教育における国家と学問と建学の精神
講師…高橋陽一（武蔵野美術大学教授）

第六回研究会

◇二〇一二年十一月二二日（木）午後四時三〇分～六時
第六回…佐々木月樵『樹立の精神』を背景から読む（二）

講師・織田顕祐（大谷大学教授）

第七回研究会

◇二〇一二年二月二〇日（木）午後四時二〇分～六時三〇分

第七回・佐々木月樵『樹立の精神』を背景から読む（二）
講師・織田顕祐（大谷大学教授）

【内容報告】

西本祐攝《清沢満之の「開校の辞」の持った意味と、その現代的表現化》

清沢が「開校の辞」に表明する願いの背景と、特に「宗教学校」と語られることの内実を確認しようとする三回の研究報告。

真宗大学が東京に移転開校する際には、大幅なカリキュラム改編と諸分野の教員が採用され、旧来の真宗大学とは大きな変化を遂げた。その目的は単なる宗門的職業僧侶養成ではなく、新しい時代に対応していく新しい仏教者、宗教者を養成することを目指したものと考えられる。

「開校の辞」では、そのような真宗大学が「宗教学校」であると言われ、特にその教育の根幹が「本願他力の宗義に基づく」人物の養成にあると言われた。清沢の言う「宗教学校」については、第三回目の報告「清沢満之と「宗教」で集中して報告と議論がなされた。真宗の学を広く開かれた教えとし

て位置づけようとする清沢の意図は、人間における普遍的な問題に対治する人物の養成を願ったものであることが確認された。

高橋陽一・《明治期の宗教教育における国家と建学の精神》

清沢満之の思想的背景を踏まえて、清沢の「宗教学校」の意味を検討した。明治時代中頃の「宗教学校」（宗教系私立大学）の置かれた制度的な位置づけは、「学問」の対象として「宗教」を教える場であることであり、そこには「学問」としての自由さと同時に規制を受けるといふ側面があった。当時の「宗教学校」という言葉は、近代的な意味としての開かれた「宗教」を教える場としても捉えられるという。

織田顕祐・《佐々木月樵の「樹立の精神」の持った意味と、その現代的表現化》

「樹立の精神」にある各タイトルにしたがって検討が進められる。「本学の歴史」「宗教と教育」「先哲苦難の歩み」「本学の願い」「仏教の解放」「学風」「三モットー」。

「樹立の精神」諸本の紹介と若干の対校作業がなされた。特に「自筆本」と「要覧本」との違いに注目し、学生手帳の「樹立の精神」のみからでは見えない背景を確認した。

第七回研究会では、月樵の学風の側面から「樹立の精神」を読み進め、仏教の「学」の解放や宗教と教育の関連の問題について、月樵の視点から確認すべき点が提示された。

その他

「私立学校令」と「宗教学校」の関連の問題

○「私立学校令（明治三十一年）」の対象は、主にキリスト教系の大学であった。（二〇一一年度の磯前氏の報告による）

○宗教教育規制の問題に関しては「私立学校令」そのものではなく、「文部省訓令一二号（明治三十一年八月）」にあった。

ただしこれは、仏教教育が宗派教育ではなく、「学」としてなされるものであれば問題がないと理解された。この訓令も後に修正案が出され、実際には宗派の儀式や僧侶養成なども行われていた。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英米班、ドイツ・フランス班・東アジア班の三班に分かれて研究活動を進めてきた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈英米班〉

一 翻訳研究活動

（一）佐々木月樵「大谷大学樹立の精神」翻訳研究について
二〇〇九年度から四年間継続してきた佐々木月樵「大谷大学樹立の精神」英訳については、以下の日程で翻訳研究会を行い、全体の訳語や表現の一貫性を確認し、序文を付して完

成した。校正が終わり今年度の研究所紀要に掲載される。

第一回研究会 五月三十一日 午後二時三〇分～四時

第二回研究会 一〇月八日 午後六時～八時

第三回研究会 十一月二〇日午後二時三〇分～四時

なお、次に取り組む翻訳研究のテキストについて選定に入り、二〇一三年度中にその計画を立てる予定。

二 国際学会・シンポジウム関係

（一）第一一回ヨーロッパ宗教学会 (European Association for the Study of Religions)

八月二三日（木）から二六日（日）の四日間、スウェーデンのストックホルム市 Södertörn University を会場に第一一回ヨーロッパ宗教学会が開催された。大会テーマは *Ends and Beginnings*（終わりと始まり）で、英米班では *Understandings of History and Salvation in Japanese Pure Land Buddhism*（日本浄土教における歴史と救済の理解）というテーマでパネルを組んで研究発表を行なった。概要は以下の通り。

Panel: *Understandings of History and Salvation in Japanese Pure Land Buddhism*

Presenters:

1) KIGOSHI Yasushi (Shin Buddhist Studies)

"The Degeneration of Buddhism and the Development of Pure Land Thought"

2) Robert F. RHODES (Buddhist Studies)

"A Modern Pure Land Interpretation of Buddhist History:

Soga Ryojin and Shinran's View of Buddhist History"

3) Michael CONWAY, lecturer (Shin Buddhist Studies)

"The Advent of a Savior on Earth:

Soga Ryojin's Discovery of a New Beginning for Amida Buddha"

Respondent: Katja TRIPLITT (Marburg University)

(二) 国際真宗学会ヨーロッパ支部大会

八月三十一日(金)から九月二日(日)の三日間、デュッセルドルフ市の Eko Haus (慧光寺)を会場に第一六回ヨーロッパ真宗学会が開催された。今回のテーマは「The Importance of Sangha (僧伽の重要性)」で、国際研からは藤枝真研究員が「日本における仏教各宗派の脳死と臓器移植に対する立場」について研究発表を行った。

アメリカ宗教学会(AAR)年次大会(十一月一七日から二〇日、シカゴ)には日程の都合で今年度は参加することができなかった。

(三) 二〇一三年度の海外学会への発表申し込み等
次年度の海外学会での研究発表の準備と申し込みを行った。

・16th IASBS 第一六回国際真宗学会学術大会(二〇一三年五月三十一日～六月二日、バンクーバー)

パネルを組織して二月一四日に発表申し込みを済ませた。
・23rd World Congress of Philosophy 第二十三回世界哲学会議(二〇一三年八月四日～一〇日、アテネ)

仏教哲学 (Buddhist Philosophy) のセッションでの発表申し込みを行った。

(四) シンポジウム開催の準備

・ハンガリーの学術協定校エトヴェシ・ロラーンド大学(ELTE)との合同シンポジウム

二〇一三年一〇月二六日(土)二七日(日)にELTEで開催される合同シンポジウム Faith in Buddhism (仏教における信)の発表準備(題目、プログラム作成)を進めた。
近日中にプログラム(添付資料参照)を大学ホームページに載せる予定。

・Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology 出版記念シンポジウム

近代教学アンソロジー Cultivating Spirituality (SUNY, 2011)の出版を記念した真宗近代教学をテーマとするシンポジウムの計画を進めた。編集を担当した Mark L. Blum 教授

Robert F. Rhode 教授とミーティングを行い、開催時期については二〇一四年度の五月末から六月頃で検討中。

三 公開講演会の開催

今年度は以下のような四回の公開講演会を開催した。

(一) 二〇一二年六月二五日 午後四時二〇～五時五〇分

講師：阿満道尋（アラスカ大学 アンカレッジ校アジア

言語学科准教授）

講題：「第二次大戦前の北アメリカにおける日本仏教の近代的発展」

会場：響流館三階 マルチメディア演習室

(二) 二〇一二年七月二日 午後四時二〇～五時五〇分

講師：Mikael Bauer 氏（リース大学 講師）

講題：「Monastic Lineages and Ritual Participation: A Proposed Revision of Kuroda Toshio's Kennitsu Taisei Model. (法脈と法会出仕：黒田俊雄の顕密体制モデルの二つの修正案)」

会場：響流館三階 マルチメディア演習室

(三) 二〇一二年一〇月二一日 午後四時二〇～五時五〇分

講師：辛嶋静志氏（創価大学 国際仏教学高等研究所 教

授・所長）

講題：「言葉の向こうに開ける仏教の原風景―経文に見え

る「浄土」の意味―」

会場：響流館三階 マルチメディア演習室

(四) 二〇一二年一月二三日（金）午後四時二〇～五時五〇分

講師：Lambert Schmithausen ランベルト・シュミットハ

ウゼン氏（ハンブルク大学名誉教授）

講題：Some Remarks on the Origin of Ālayavijñāna
「アラーヤ識の起源に関するいくつかの見解」

会場：メディアホール 響流館三階

第一回と三回は国際的に活躍する日本人研究者に真宗・浄土教研究に関連した講演を依頼し、第二回と四回は近年の注目すべき研究について海外の仏教学者に講演していただいた。第四回のシュミットハウゼン教授は高名な唯識学者であり、メディア・ホールに大勢の聴衆が集まった。

〈ドイツ・フランス班〉

一 学会参加・研究発表

◇第一六回ヨーロッパ真宗学会について（発表参加…藤枝真）

二年ごとに行われているこの学会は、国際真宗学会 (IASBS) のヨーロッパ支部大会と国際仏教文化教会

(IABC)の学術大会という二つの側面をもち、今大会は「the Importance of Sangha」(サンガの意義)が共通のテーマとして掲げられて、それぞれの組織の主旨に合わせた発表(五分の持ち時間で質疑応答一〇分を含む)がなされた。

真宗学、仏教学、心理学など、様々な研究分野からの発表があるなかで、藤枝は生命倫理をめぐる宗教的言説の位置づけが変化していく様子を発表し、議論の多元的な性格を保つために、サンガが社会に向けて発言する重要性を強調した。

二〇一二年八月三十一日(金)(European Branch Conference of the IASBS)

Fujieda, Shin: "Sangha and its Participation in the Public Debate on the Issue of Brain Death/Organ Transplantation" (脳死・臓器移植問題に関する公的議論へのサンガの寄与)

二 研究者との交流・調査について

上記の大会の前後に、ドイツの宗教学・神学・仏教学研究者と交流し、またドイツ国立図書館での情報収集を行った。

大会前には、フランクフルトでマルティン・レップ氏(元龍谷大学教授)と、またマールブルクではシュテファン・イエーガー氏(マールブルク大学神学博士)と会談し、ドイツでの宗教研究の現状や、生命倫理を巡る今日の問題について教示を受けた。また、大会後には再びマールブルクに赴き、ゲルハルト・マルセル・マルティン氏(マールブルク大学名誉

教授)と会談し、これまでの本学との共同研究の歩みやこれからの研究のあり方について意見を交換した。

三 シンポジウムの論文化(刊行準備)

二〇一〇年にフランス国立高等研究院においておこなわれたシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」で口頭発表した原稿を加筆修正し、論文化(英語・フランス語)したものを同研究院のフィリップ・ボルティエ教授に送り、フランスでの刊行の準備をすめた。現在、以下の全四編の論文のフランス語訳が完了している(※番場論文は自身でフランス語で執筆)。

ロバート F・ローズ "The Buddhist-State Relationship in

Japan: Some Observations on the Thought of Saichō and Kūkai: Two Early Medieval Monks of the Ninth Century (日本における仏教と国家―

最澄と空海の思想についての一考察)

村山保史 "State and Religion in the Thought of D.T.

Suzuki" (鈴木大拙の思想における国家と宗教)

藤枝 真 "Keeping Up the Grand Narrative: National

Identity and State Shintoism in the Public Sphere" (「大きな物語」を保ち続けること…公共領域におけるナショナル・アイデンティティと国家神道)

番場寛

“Essai sur le discours religieux dans le Japon contemporain - Autour des différents noms de Shinran et du Namanidabutsu”（宗教の〈ディスクール〉への試論―親鸞と南無阿弥陀仏の異名をめぐる）

〈東アジア班〉

中国社会科学院歴史研究所との共同研究

中国社会科学院歴史研究所とは二〇一〇年に学術交流協定を締結し、交流に努めてきた。本年度は二年目に当たり、本学から二名が先方を訪問、先方から三名を本学へ招聘し、交流を深めた。また、今後の交流に関する協議も行った。

一 二〇一二年七月三〇日（木）―八月二日（月）、桂華淳祥教授、松川節教授が、中国社会科学院歴史研究所を訪問し、研究発表を行った。

石刻史料から見た金代佛教と帝室 桂華淳祥
パスパ文字モンゴル文ウサギの年聖旨の断片について 松川 節

二 二〇一一年九月二四日（月）―一〇月一日（土）、林存陽研究員・陳麗萍助理研究員・烏雲高娃副研究員の三名を招聘し、本学にて研究活動を行い、公開研究会を開催した。

九月二五日（火）午後四時―六時 マルチメディア演習室

（響流館三階）

清代学者の師友観

林存陽（中国社会科学院歴史研究所研究員）

敦煌石窟壁画中の婚姻資料―弥勒経変を中心に

陳麗萍（中国社会科学院歴史研究所助理研究員）

洪武本『華夷訳語』の漢字音訳の規律

烏雲高娃（中国社会科学院歴史研究所副研究員）

西藏文献研究

一 チベット語文献の電子テキスト化

ツァンナクパ著『量決択註』（大谷蔵外 No.13971）の電子テキスト化について、校訂・編集作業を進めた。最も分量の多い第一章について、そこに含まれているダルマキールテイの『量決択』偈の部分が一目で分かるようにし、偈のサンスクリット・テキストも掲げ、偈と註釈との対応関係がわかるように工夫した校訂テキストが完成し、西藏版のWebサイトで公開した。第二章についても今年度内に完成・公開する予定である。第三章は校訂・編集の最終段階に入っている。

『サンブ明鏡史』（大谷蔵外 No.13981）の電子テキストについては、ウメー書体（草行書に相当）のウチェン書体（楷書体）への翻刻作業は終了した。しかし、大谷大学図書館所蔵の写本が唯一の資料であるため、校訂作業を進めるにあたっては、内容を十分に理解する必要がある、校訂作業とともに和訳の作業も同時に進めることが必要となった。そのため、

九月二八、二九日に学内外の研究者を交え研究会を開催し、ゴク翻訳官（一〇五九―一一〇九）の継承者に関する記述部分について（8b1-10a3）、嘱託研究員・西沢史仁氏が作成した仮校訂本と試訳を検討した。

二 北京版チベット大蔵経の写真撮影とネット上での公開方法の検討

公開可能な写真データはPDF化し、文献ごとに切り分けて、当研究班のウェブサイト上にある Peking Triptaka Online Search（北京版チベット大蔵経オンライン目録）とリンクさせる形で公開している。しかしこの方法では、検索結果を見なければ、見たい文献のPDFにたどりつけない。そこで、公開されている文献のPDFに直接リンクを張った一覧のページを別途作成し、閲覧の便を計った。

さらに、今後も北京版の撮影を続けていくために、撮影方法の確認、撮影したデータを公開可能なPDFにまで加工する方法などの確認を行った。

大谷大学所蔵蔵外文献目録の電子データについては、著名のデータに修正を加え、オンラインでの検索等の機能が作動することをローカル上で確認した。

三 パーリ語貝葉写本のデジタル化

本学図書館・博物館からの依頼をうけて、博物館所蔵のタイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の元梱包布地六四枚と組紐など

の撮影を実施した（二〇一二年九月三日―一三日）。

稀観写本『マハーブッダグナンヴァータ・アッタカター (Mahābuddhagunavāta athakathā)』については、クメール文字からローマ字への転写が半分完了した。

四 寺本婉雅の日記の翻刻

村岡家所蔵・寺本婉雅関連資料に含まれる寺本婉雅の二種類の日記のうち、刊行済みの『蔵蒙旅日記』（芙蓉書房、一九七四年）では記述の薄い、あるいは記述のない一八九九年九月一日―一九〇〇年二月三日「最終記事は一九〇〇年七月二七日」間の日記の翻刻が終了した。

五 海外の研究者、研究機関との交流

中国・北京の中国蔵学研究センターにおいて開催された第五回北京チベット学国際セミナーに嘱託研究員・ツルティム・ケサン（白館戒雲）および研究員・三宅伸一郎を派遣した（二〇一二年八月一日―五日）。ツルティム・ケサンは「チベット前伝期仏教略史」、三宅は「Life of sKyang sprul Nam mkha' rgyal mtshan (1770-1832) and his chronological table of Bonpo」と題する発表を行い、また海外の研究者との情報交換を行った。

二〇一二年一月二六日には、ネパールにあるボン教僧院ティテン・ノルブツェ僧院長テンパ・ユンドゥン師を招き、「ボン教の歴史とその思想」と題する公開講演会をおこなった。

翌日にも同師を招き、ボン教の現状や教義に関してディスカッションをおこなった。

アイルランドのダブリンで開催された東南アジアの写本研究を含む国際会議（The 14th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists）に嘱託研究員・清水洋平を派遣した（二〇一二年九月一七日～九月二二日）。清水は学会参加後、同地に所在するチェスター・ビーティー図書館（Chester Beatty Library）において、大谷貝葉の中の稀観文献『マハーブッダグナンヴァータ・アッタカタ』の関連写本の調査を実施した。その結果、イギリスの大英図書館（British Library）から、同館所蔵のパリ語写本コレクションのうち大谷貝葉と関連するパリ語写本についての調査許可を得ることができ、清水を同図書館に派遣した（二〇一三年三月六日～三月一四日）。

執筆者紹介 (二〇一四年三月三十一日現在)

加来雄之	二〇一二年度一般研究(加来班) 研究代表者・本学教授
川村覚昭	二〇一〇年度一般研究(川村班) 研究代表者・本学教授
川端泰幸	二〇一二年度一般研究(川端班) 研究代表者・本学任期制講師
雷 聞	中国社会科学学院歴史研究所副研究員
浅見直一郎	本学教授
鈴木寿志	二〇一二年度一般研究(鈴木班) 研究代表者・本学准教授
柴田みゆき	同 研究員・本学准教授
周藤正史	同 協同研究員・ポツダム大学地球科学研究科研究員
辻野泰之	同 協同研究員・徳島県立博物館主任研究員
小木曾哲	同 協同研究員・京都大学准教授
ディエルシエ・フォルカー	同 研究協力員・ドイツ在住研究者
三上禎次	同 研究協力員・本学非常勤講師
武田和哉	二〇一三年度一般研究(武田班) 研究代表者・本学准教授
藤原崇人	同 協同研究員・関西大学東西学術研究所非常勤研究員
等々力政彦	同 協同研究員・北海道大学スラブ研究センター共同研究員
町田吉隆	同 協同研究員・神戸市立工業専門学校教授
高橋学而	同 協同研究員・福岡文化学園博多女子高等学校教諭
徳岡博巳	二〇一二年度一般研究(徳岡班) 研究代表者・本学教授
三宅伸一郎	二〇一二年度一般研究(三宅班) 研究代表者・本学准教授
ダシユシヨバラニ	二〇一二年度一般研究(三宅班) 研究員・本学講師
高本康子	二〇一三年度指定研究(西藏文献研究) 嘱託研究員・北海道大学スラブ研究センター学術研究員
古川哲史	二〇一二年度一般研究(古川班) 研究代表者・本学准教授
三浦誉史加	二〇一二年度一般研究(三浦班) 研究代表者・本学准教授

李 青

M・ガントヤー

松川 節

清水洋平

舟橋智哉

二〇一二年度一般研究（李班）研究代表者・本学教授

二〇一三年度指定研究（西藏文献研究）嘱託研究員・モンゴル国立大学社会科学部教授

二〇一三年度指定研究（西藏文献研究）研究員・本学教授

二〇一三年度指定研究（西藏文献研究）嘱託研究員・本学、神戸国際大学非常勤講師・特別研究員

二〇〇三年度指定研究（パリ語文献研究）研究補助員・本学大学院博士後期課程修了